

核兵器の人的影響に関する国際会議(概要と我が国の対応)

1. 背景

核兵器使用の人的結末については、2010年NPT最終文書において、「深い懸念」を表明する旨の言及がある。本件に関心を持つノルウェーが、核爆発が短期・長期において人道・環境・開発等様々な局面に与える影響につき議論するため、今般本件国際会議を開催するに至ったもの。

本件会議において、主催国ノルウェーとしては、科学的見地に基づく政府事務レベル・専門家レベルの議論を想定している。

2. 会議概要

日時	2013年3月4日(月)・5日(火) (3月2日・3日に別途NGO主催の市民社会セッションあり)		
場所	ノルウェー・オスロ		
主催	ノルウェー外務省		
参加国	(確認中)		
スケジュール	3月4日	10:00～11:00	開会セッション
		11:00～13:00	セッション1「核兵器の爆発による即時の人的影響」
		14:30～17:00	セッション2「広範な影響と長期的影響」
	3月5日	10:00～12:00	セッション3「人的側面における準備と核兵器使用に対する反応」
		13:30～15:00	閉会及び議長総括

3. 我が方の対応

我が国は従来より核兵器使用による被害の実相を世界に知らせる取組を積極的に進めてきている。本件会議においても唯一の被爆国としての知見と経験に基づく発言を通じ、議論に貢献する。

このため、朝長日本赤十字社長崎原爆病院長、田中被団協事務局長及び外務省職員2名(軍備管理軍縮課長、同事務官)の計4名を政府代表団として派遣。

朝長院長は、セッション1において、スピーカーとして医学分野の専門的見地から放射能の影響について発言予定。田中事務局長は、セッション1、2においてフロアから自らの被爆体験等を発言する予定。